

拡大BRICSの行方：カザンサミットをどう見るべきか

上席主任研究員 坂本 正樹

BRICSがカザンサミットを開催

ロシア中部のカザン市で10月22～24日にBRICSサミットが開催。報道によれば正式加盟国9カ国を含む36カ国及び国連などの代表が参加した。BRICSが9カ国体制（拡大BRICSまたはBRICSプラス）となって初のサミットであり、影響力の増大を誇示する形となった。

「反欧米」の在り方：名指しで非難された「CBAM」

サミットで採択された**カザン宣言**では、①多国間主義の強化と多極的世界秩序の追求、②違法な制裁・一方的強制措置への懸念、③脱炭素を巡る一方的措置への非難、④イスラエルの行動への非難など、「反欧米」の姿勢が様々な形で示された。特に欧州連合（EU）の**国境炭素調整メカニズム（CBAM）**については、宣言内で具体的に指摘されて非難が表明されるなど踏み込んだ意思表示が見られた。また、経済制裁についても対象国の貧困層への影響を引き合いに撤廃を要請するなど、欧米の制裁下にあるロシアやイランの意向をより強く反映した内容になった。拡大BRICS内では「反欧米」について国毎の温度差も指摘されるが、昨年のヨハネスブルグII宣言と比べるとカザン宣言では個別の政策 이슈 でまとまった意見表明を打ち出す1つの可能性が示されたと言える。

拡大するBRICSとインドの慎重姿勢

昨年のヨハネスブルグサミット以降もBRICS拡大の動きは確実に進展している。特に今年5月以降にタイ、トルコ、マレーシアが相次いで加盟を申請した他、今回のサミットでは10月に新政権に移行したインドネシアが加盟の意思を表明した。また、カザンサミットでは新たに「**パートナー国**」制度が創設され、報道などによれば13カ国がこのタイトルを与えられた。

一方で、BRICSが拡大する中で内外には様々な摩擦も指摘されている。特に大きいのは**インド**と他のメンバー国の温度差になる。BRICS拡大に比較的前向きな中口と比べて、インドは従来からBRICS拡大に慎重姿勢をとっており、新設された「パートナー国」も正式加盟国との差別化を図りたいインドの意向が反映されたとの見方もある。また、インドは係争問題を抱える隣国**パキスタン**や同国と近い**トルコ**のBRICS加盟に否定的な立場をとっている。8月に加盟の意思を表明したパレスチナについても友好関係にあるイスラエルへの配慮から慎重姿勢をとるとみられる。

BRICS内に潜在する対立・分断リスク

BRICS加盟申請を巡って地域内対立が摩擦となる事例は印パ関係だけでない。ブラジルは南米地域で独裁志向を強める**ベネズエラ**の加盟に反対の姿勢をとっており、同国の「パートナー国」入りを阻んだとされる。また、今回サミットに参加した**アルメニア**と**アゼルバイジャン**（後者は加盟申請済み）は、昨年9月のナゴルノ・カラバフ衝突を巡って和平交渉の最中にある。アルメニアは同紛争を巡るロシアの支援見送りを受けて、今年6月に旧ソ連諸国の軍事同盟である集団安全保障条約機構（CSTO）からの離脱を正式に表明するなど、ロシアとも摩擦を抱える。東南アジア諸国連合（ASEAN）では、主要国の多くがBRICS加盟に動く中で、中国と南シナ海問題で緊張関係にある**フィリピン**はBRICSとも距離を置く姿勢をとっている。加盟申請の広がり、国際社会におけるBRICSの影響力拡大を示すと同時に、BRICSが内包する潜在的な対立や分断のリスクを表面化させることにもつながりそうだ。

▽BRICS加盟国の現状

原加盟国(5)	ブラジル、ロシア、インド、中国、南ア	2011年に南アが参加（大文字のBRICSに）
24年新規加盟国(4)	イラン、エチオピア、エジプト、UAE	23年のサミットで合意した6カ国の内の4カ国（24年1月に正式加盟）
パートナー国(13)	インドネシア、ベトナム、ウズベキスタン、 タイ* 、 マレーシア* 、 トルコ* 、 ベラルーシ* 、カザフスタン、 キューバ* 、 ボリビア* 、ナイジェリア、アルジェリア、ウガンダ	インドネシアは24年10月に加盟の意思表示 アルジェリアは24年10月に加盟申請を撤回したとの報道。
カザンサミット出席国(17)	アルメニア、 バーレーン* 、コンゴ共和国、キルギス、ラオス、モーリタニア、モンゴル、ニカラグア、パレスチナ、タジキスタン、トルクメニスタン、 バングラデシュ* 、 ベネズエラ* 、 アゼルバイジャン* 、セルビア、 スリランカ* 、サウジアラビア	サウジは23年8月に正式加盟合意を発表したが、依然検討中との報道。 パレスチナは24年8月に加盟の意思を表明
その他の主な関心国など	パキスタン* 、 シリア* 、 ジンバブエ* 、ミャンマー、ホンジュラス、アルゼンチン	アルゼンチンは23年8月に正式加盟合意を発表したが、政権交代後に撤回

（注）パートナー国及びカザンサミット出席国のリストは正式発表がなく報道等に基づく。

*加盟申請国（個別の報道で確認した国のみを記載。24年10月までに計34カ国が申請したとの報道もあるが内訳は不明）

（出所）各種報道

(執筆者プロフィール)

坂本 正樹 (Masaki Sakamoto)

SAKAMOTO-MASAKI@marubeni.com

上席主任研究員

研究分野：東南アジア、南西アジア、中近東

2012～17年に慶應義塾大学リーディング大学院プログラム（オールラウンド型）の非常勤研究員。2018年に丸紅入社、経済研究所にて日本、米国、中近東、東南アジア、南西アジアの政治経済担当を歴任。慶應義塾大学法学研究科（政治学専攻）修士課程修了、理工学研究科（開放環境科学専攻）修士課程修了、法学研究科（政治学専攻）博士課程修了、博士（法学）。専門は国際政治学、外交・安全保障、マクロ経済。

株式会社丸紅経済研究所

〒100-8088 東京都千代田区大手町一丁目4番2号

<https://www.marubeni.com/jp/research/>

(免責事項)

- 本資料は公開情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、相当性、完全性を保証するものではありません。
- 本資料に従って決断した行為に起因する利害得失はその行為者自身に帰属するもので、当社は何らの責任を負うものではありません。
- 本資料に掲載している内容は予告なしに変更することがあります。